

等々力キャンパスの巻

2009年4月、本学は東横学園女子短期大学と統合し、5学部16学科を擁する総合大学、「東京都市大学」へと発展。同短期大学が使用していたキャンパスは、新しい文学学部、都市生活学部都市生活学科と人間科学部児童学科の学舎として生まれ変わりました。今回ご紹介するのは、東急大井町線等々力駅から徒歩約10分、閑静な住宅街の中にあるこの「等々力キャンパス」。充実した施設の一部を学生の明るい笑顔とともにご案内いたしましょう。



1号館



ここは1号館と2号館の共通エントランス。手前の1号館(3階建て)には、主に人間科学部の学生たちが実践的な学修を進めるための教室が設置されています。ここで紹介した以外に、グランドピアノ他、多岐にわたる楽器類が備えられた「音楽室」や、実物大の赤ちゃん人形などさまざまな育児用教材が揃った「小児保健実習室」、語学演習用に用いられる「メディアラボ」などもあります。

学科事務室

1号館に入ると、すぐ右手に両学部学生のための学科事務室があります。「学生さんからは、学習面からプライベートまで、いろいろと相談されます。モットーは「いつも笑顔で」と、事務員の遠藤真木子さん(右)と西村美佳さん。



2号館



1号館と2号館の間には、鯉が泳ぐ噴水など憩いのスペースが広がります。突き当たりの2号館(4階建て)には、学生ホールや、都市フォーラム、スタジオシアターのほか、教員の研究室や、都市生活学部のための「製図室」、人間科学部が使う「調理実習室」、坪庭付きの本格的な「茶室」などがあります。

1F 学生ホール

軽食や飲み物を販売。焼きたてのパンが大人気で、昼休みには両学部の学生たちでいっぱいになります。子育て支援センター「ぴっぴ」の帰りにちょっと腹ごしらえをする近隣の方もちらほら。奥のショップでは文房具など学修に必要なものや日用雑貨が揃っています。

左から都市生活1年の斎藤佑樹君、佐賀良健斗君、栗林真広君。「都市全般について学べる、他にはない学科ということで進学しました」(斎藤君)、「社会の第一線で活躍していた先生が多いので勉強になります」(佐賀良君)、「いながらにして感性が鍛えられる環境です」(栗林君)。ちなみに今日のランチは、斎藤君が持参のお弁当、佐賀良君は焼きそば、栗林君はおむすびでした。



1F ピアノ演習室

31の個室に35台のアップライトピアノを備えています。人間科学部の学生は、授業時間以外でも予約すれば使用可能。1限と2限の合間に自習をしていた池蕙君(児童1年)は、「これまでは趣味でピアノをたしなんでいた程度でしたが、今は保育士目指して猛訓練中。ここは完全防音なので、周りを気にせずに思い切り練習できます」



2F 図画工作室

子どもの表現方法を学ぶために、学生たちが絵画・工作に取り組む教室。前の廊下には、グループ制作の作品がたくさん置かれています。自分たちの作品を紹介してくれた児童1年の鳥居茜さん、土屋友



梨恵さん、田中春野さん(左から)。「今回はさまざまな材料を使った立体作品を仕上げました。素材で遊ぶ力が表現力が身につきます」



メディアラボ

各学生に一人ずつ、計35台のパソコンが設置されたメディアラボが2教室用意されています。この日は、都市生活1年の必修科目「デザインコンピューティング」の授業中。建築設計用のコンピュータソフトを駆使して、学生自ら建物のインテリアなどを決めていきます。担当の末繁雄一先生は、一級建築士で、都市計画などがご専門。「学生の自主性を伸ばしながら、潜在力を引き出すのが僕たちの仕事」と語ります。



榎原舞さん(左)は、「ソファの素材を検討しています。周囲とのバランスを考えるのが難しいけど、とっても楽しいですね」。お隣の三枝将君は「ただいま壁紙の材質を変更中。建物の根本的な仕組みを理解しながら、インテリアのことまで勉強できるので、非常にためになります」